

1. 研究会紹介

夢も膨らむ若手フォーラム、その知られざる全貌

佐藤康之（東京都立大学院）

巷の噂によると、毎年、夏になると、全国各地の諸大学から哲学専攻の学生が一箇所に集まって「哲学若手研究者フォーラム」などと称して一泊二日で何やらアヤシゲなことをしているらしい。一体全体何をやっておるのか。さあ早く、洗いざらい一切正直に白状して楽になりなさい。とまでは言われませんでした。何をしているどのような団体なのか、興味あるから紹介せよとのことなので包み隠さず報告します。

まず、この集まりに参加する人がその二日間をどのように過ごすのかを述べます。2004年の場合は、7月17日（土）・18日（日）におこなわれました。場所は、東京都心から電車とバスを乗り継いで一時間半くらい、八王子市の山のなか、「大学セミナーハウス」というところです。二日間のタイム・スケジュールは以下のとおりです。

7月17日（土）

| | |
|-------------|-----------|
| 12:30- | 受け付け開始 |
| 13:00-14:50 | 個人研究発表 |
| 15:15-18:45 | テーマ・レクチャー |
| 19:00-21:00 | 懇親会 |

7月18日（日）

| | |
|-------------|----------------|
| 10:00-11:50 | 個人研究発表 （昼食） |
| 13:00-14:50 | 個人研究発表 |
| 15:00-16:50 | 個人研究発表 |
| 17:00-18:00 | 全体会 |

会場に到着したら、まず受け付けで参加費を払います。参加費は、宿泊するかしないかや、懇親会に参加するかしないかなどによって異なります。「宿泊する、懇親会に参加する、二日目の朝食と昼食も取る」というフル装備の場合で、毎年だいたい一万円前後です。（初日の途中からの参加や、初日だけでもしくは二日目だけの参加も可能です。）

受け付けを終えれば、午後一時からは個人研究発表です。これは、学会での発表とは異なり、あまり格式張ることなく、各自が興味をもっている話題について同じような関心をもつ他の若手研究者と率直に話し合い刺激を与え合うための時間です。学会発表などの予定演習として、あるいは修士論文・博士論文の提出までの中間報告として利用されています。個人研究発表は、二日間で四つの時間帯が用意されており、また各々の時間帯に三つの会場で異なる発表がなされますので、合計

で12コマあることになります。事前に配布されている時間割表にしたがって自分の聴きたい発表の会場に行ってください。

それが終われば、次は、テーマ・レクチャーの時間です。これは、参加者が一箇所に集まって、ゆるやかなまとまりのあるひとつのテーマのもとでのレクチャーを受けるという企画です。2004年の場合は、「魂の教育は可能か 自由・知識・欲望」というテーマで、田島正樹氏(東北芸術工科大学)と納富信留氏(慶應義塾大学)のお二人をお招きし、お話しをしていただきました。いままでお越しいただいたどの先生もみな個性的で面白い方ばかりでした。そのなかでもとくに強烈に印象に残っているのが、昨年の田島先生です。その話芸(?)には、多くの参加者が圧倒されてフラフラになってました。

田島先生のサクレツするトークによってフラフラになっていたのではなく、たんに空腹だけだけという方もいたかもしれません。そういう方のためには、テーマ・レクチャーのあとに、夕食を兼ねた懇親会を用意しています。懇親会というのは、レクチャーの先生方にも参加していただいて、飲むと気持ちのよくなる不思議な液体をせつせと摂取しながら友人知人や今日をはじめ知り合いになった人を相手に気楽に哲学的な話をはずませる饗宴のひとつときなのです。(ちなみに、フォーラム直後のアンケートによれば、参加の理由として最も多かったのが、「他の若手研究者との交流」でした。)

そのあとは、入浴、自由時間です。自由時間というのは、「この液体が我らにとっての夜の岩波文庫だ」とか何とか言いながらさらに飲酒に励み(ソフト・ドリンクもあります)気楽な方へだろうが生真面目な方へだろうが話題を自由自在に変えることのできる楽しい時間です。もちろん、さっさと寝床へ入ってもらってもOKです。寝るなり呑むなり好きにしてください。議論好きな人と物好きな人のなかには、翌朝四時ころまで熱く語り合っている人もいます。

眠い目をこすりつつ、翌日は個人研究発表を3

コマして、そして夕方にまた参加者が一箇所に集まり全体会をおこないます。そこでは、一年間の会計報告、新しい世話人の承認などがおこなわれます。

世話人というのは、一年間かけてフォーラムの準備をする奇特な人のことです。八人います。世話人の任期は基本的に二年間です。新しく世話人に承認された人は、フォーラム終了後に、二年間の任期を終えた古い世話人と交代します。世話人になるのは、酒の席などで口説かれて何があんだかよくわからないんだけど面倒だから断らずに済ませていて気がついたら世話人の候補にさせられていたから というのは、私だけかな。

新しく編成された世話人たちの会合つまり世話人会の仕事は、大きくふたつに分けることができます。ひとつは、次の年のフォーラムを成功させることです。そのために、秋ごろから、翌年のフォーラムでのテーマ・レクチャーをどうするか(具体的には、テーマを何にするか、レクチャーを誰にするか)を、参加者のアンケートなどをもとにして決めます。そして、春から初夏にかけて、参加申し込みと、個人研究発表の申し込みの受け付けをします。そのあとは、宿泊者数を確定させて参加費の計算、宿泊施設での部屋の確保、懇親会の料理の手配、個人研究発表とテーマ・レクチャーの予稿を掲載する「参加のしおり」なる文書の作成および郵送、というふうにフォーラム開催の準備に追われる日々なのです。

世話会のもうひとつの仕事は、毎年5月ころに『哲学の探求』という雑誌を発行することです。これには、フォーラムでの個人研究発表をもとにした論文と、レクチャーの論文、そして次のテーマ・レクチャーのレクチャーの予稿を載せます。晩秋ころから、原稿回収、校正、入稿という作業が続きます。予定されている原稿が滞ったりすると編集担当者はたいへんです。雑誌は、作るだけでなく、学会が開かれるときにそこに売りに行くということもします。だいたい毎年、日本哲学会で最新号のお披露目をして、そ

のち科学基礎論学会と日本科学哲学会で売らせてもらっています。さらに、毎年の最新号を、哲学の講座をもつ各大学と国立国会図書館に贈呈するというこもします。太っ腹です。

こんな活動がいったいつから続いているのでしょうか。1973年におこなわれたのが記念すべき第1回でした。(そのころは「全国若手哲学研究者ゼミナール」と名乗っており、2001年に現在の名称に変更されました。)とはいえ、私は昔のことなんか本当はよく知らないのです。なにせ、世話人の任期が二年であるうえ、過去の世話人会の議事録なんてほとんど残っていないのです。何年かまえに世話人をした人から、「昔はこうだったらしい」などと断片的に聞くばかりです。まるで口承文芸の世界。学会などで雑誌を売っていますと、たまに、昔々の参加者とおぼしき方が雑誌を目にして、「うわ、まだ続いていたのか？ ナニナニさんはどうされていますか」などと尋ねられることがあります。しかしいまの世話人は、そんな昔の参加者のことなんか知りません。

そもそも、会員とか年会費という概念がないのです。年毎のフォーラムへの参加申し込みをした人がその年の参加者であって、参加申し込みをしていないのに年会費だけいただくという事はしません。だから、年毎の参加者名簿はあっても、会員名簿なんかないのです。まことに不思議な集団です。

この不思議な集団のイベントがまたしても去年と同じ大学セミナー・ハウスで、今年は7月30日(土)・31日(日)に開かれる予定です。テーマ・レクチャーとしては、認識論というテーマのもとで、伊勢田哲治氏(名古屋大学)、一ノ瀬正樹氏(東京大学)、金森修氏(同)の三人をお招きしてお話していただくようお願いしているところです。

というわけで、哲学若手研究者フォーラムについて説明しました。フォーラムのあり方について

は、「参加者が分析系にかたよっているのを何とかしろ」、「もっとたくさんの女性が気軽に参加できるように配慮しろ」、「たまには温泉地などの風光明媚なところで開催しろ」などの要望が寄せられていて、まだまだ改善すべきことがあります。まあ、そのうち何とかなるでしょう。

フォーラムの運営したいは、参加者が支払う参加費だけでまかなわれており、財政的援助なるものはどこからも一切受けていません。(ついでに余剰金もありません。)世話人はみなボランティアです。都心でおこなっている世話人会の会合へ行くための交通費すら自弁なのです。こんな面倒な仕事を引き受けている私はひよっとしたらヘンタイなのではないだろうかと思えます。それなのに続けられているのは、(他の世話人の意見を訊いたことはありませんが、少なくとも私にとっては)これがちょうどよい気晴らしになるからだと思えます。フォーラム開催へ向けてうごめく他の世話人たちの言動を見てみると、自分には思いもよらぬ考え方、感じ方があるのだということに気づかされます。そんなわけで、私はさいきんあらためて、「人間てのは面白いなあ」としみじみ思うようになってしまいました。

人間の面白さに気づくのと同じくらい喜ばしいのが、フォーラム当日に参加者の発表や質疑応答を聴いて、自分の知らない哲学の分野がたくさんあるということを教えられることです。大学や専門分野の垣根を越えて多くの方がフォーラムに参加し、そして人と学問の多様性にふれてこの集まりを面白いなあと思ってもらえれば、それが世話人一同にとっていちばんうれしいことです。

世話人代表 佐藤康之

daihyo@wakate-forum.org

<http://www.wakate-forum.org/>



(2004. 4. 1 ~ 2005. 3. 31)

日本科学哲学会第11期理事会

第5回

日時：2004年6月26日(土) 14:30~15:45

- 議題：1. 新入会員、退会会員について
2. 第37回大会(於京都大学)
準備状況について
3. その他
名譽会員について

第6回(『科学哲学』37巻第4回編集委員会、 第37回大会実行委員会)合同会議

日時：2004年10月2日(土)

2004年10月3日(日) 12:30~13:30

- 議題：1. 新入会員、退会会員について
2. 収支予算について
3. 次期編集委員について
4. 第38回大会について
5. 応募論文の審査状況について
6. 『科学哲学』37巻2号の製作状況について
7. 審査基準について
8. その他
書評論文に対する返答の扱いを
巡る問題について

第7回

日時：2004年12月25日(土) 14:00~15:30

- 議題：1. 新入会員、退会会員について
2. 第38回実行委員会について
3. 第38回大会について
4. 大会における発表の準備について
5. 編集委員について
6. その他
訃報について
ニューズレターの内容について

第8回

日時：2005年3月29日(火) 13:30~14:30

- 議題：1. 新入会員、退会会員について
2. 第38回大会(於東京大学駒場キャンパス)準備状況について
3. その他
名簿について

『科学哲学』37巻編集委員会

第4回

日時：2004年6月26日(土) 16:00 ~ 17:00

- 議題：1. 応募論文の審査状況について
2. 『科学哲学』37巻1号の版下作成
状況について
3. 『科学哲学』37巻2号の編集状況
について
4. 今後の運営方針および改善策について
5. 書評に取り上げるべき書籍について
6. その他
書評論文の投稿について

第5回

日時：2004年12月25日(土) 15:40 ~ 17:10

- 議題：1. 応募論文の審査状況について
2. 『科学哲学』37巻2号の製作進行
状況について
3. 書評に取り上げるべき書籍について
4. 書評対象の選出について
5. 次回の特集について
6. 編集委員会の問題点について

『科学哲学』38巻編集委員会

第1回

日時：2005年3月29日(火) 12:30 ~ 13:30

- 議題：1. 応募論文の審査状況について
2. 『科学哲学』38巻1号編集状況について
3. 書評に取り上げるべき書籍について
4. 論文の審査基準について

第38回大会実行委員会

第1回

日時：2005年3月29日(火) 16:15~17:30

議題：1. 第38回大会のプログラムについて
シンポジウムについて
ワークショップについて



会計報告

【2003年度決算】

| | |
|--------------|-----------|
| 収入：前年度繰越金 | 2,005,996 |
| 学会費納入 | 2,337,000 |
| 大会参加費 | 157,000 |
| 大会寄付 | 60,000 |
| 学会誌売上 | 122,568 |
| 預金利息 | 11 |
| 出版社著作権協議会分配金 | 37,000 |
| 合計 | 4,719,575 |

| | |
|-------------------|-----------|
| 支出：『科学哲学』36巻1号制作費 | 529,550 |
| 『科学哲学』36巻2号制作費 | 541,310 |
| ニューズレター制作費 | 94,500 |
| 第36回大会運営費 | 316,372 |
| 通信費 | 352,560 |
| 印刷費 | 65,200 |
| 消耗品費 | 54,145 |
| 委員会交通費 | 96,000 |
| 事務局費 | 47,790 |
| 事務局補助給与 | 480,000 |
| アルバイト代・手数料 | 98,025 |
| 小計 | 2,675,452 |
| 次年度繰越金 | 2,044,123 |
| 合計 | 4,719,575 |

【2004年度予算】

| | |
|--------------|-----------|
| 収入：前年度繰越金 | 2,044,123 |
| 学会費納入 | 2,200,000 |
| 大会参加費 | 150,000 |
| 学会誌売上 | 100,000 |
| 預金利息 | 100 |
| 出版社著作権協議会分配金 | 40,000 |
| 合計 | 4,534,223 |

| | |
|-------------------|-----------|
| 支出：『科学哲学』37巻1号制作費 | 500,000 |
| 『科学哲学』37巻2号制作費 | 500,000 |
| ニューズレター制作費 | 100,000 |
| 第36回大会運営費 | 300,000 |
| 通信費 | 300,000 |
| 印刷費 | 70,000 |
| 消耗品費 | 60,000 |
| 委員会交通費 | 200,000 |
| 事務局費 | 100,000 |
| 事務局補助給与 | 480,000 |
| アルバイト代・手数料 | 70,000 |
| 小計 | 2,680,000 |
| 予備費 | 1,854,223 |
| 合計 | 4,534,223 |



学会・研究会予告

日本科学哲学会第38回大会

【期日】2005年12月3日(土)・4日(日)

【場所】東京大学・駒場キャンパス

日本哲学会第64回大会

【期日】2005年5月21日(土)・22日(日)

【場所】一橋大学

科学基礎論学会総会

【期日】2005年6月18日(土)・19日(日)

【場所】東北公益文科大学

海外学会については、以下の情報ソースをご参照下さい。

(1) The Philosophical Calendar

http://www.crvp.org/Philosophical_Calendar/index.html

(2) Epistemelinks.com (Events)

<http://www.epistemelinks.com/index.aspx>

(3) Association for Symbolic Logic

<http://www.aslonline.org/>

(4) Conference Alerts (Philosophy)

<http://www.conferencealerts.com/philosophy.htm>



訃報

2004年10月28日に、名誉会員の石本新氏が逝去されました(享年87歳)。また、2005年2月8日に、名誉会員の大出晁氏が逝去されました(享年79歳)。

お二人には長年にわたり本学会の理事をお務めいただくなど、多大なご尽力を賜りました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



事務局からのお知らせ

2005年度分の学会費をお納め下しますようお願い申し上げます。貴台の(今年度分を含めた)学会費未納分合計金額に相当する数字が、封筒表面のラベル右下に記載されていますので、同封の振込用紙にてお納め下さいますようお願い申し上げます。なお、「-」表記の方は完納となっております。



「哲学若手研究者フォーラム」という活動があり、なにやら楽しげなことをしているらしいというので、今回はこちらからお願いして世話人のお一人をやられている佐藤康之さんにその活動を紹介していただきました。御礼申し上げます。他にもこのような活動を知らしめたいとお考えの方があれば、どうかご連絡ください。ところで、私、このたびは大会実行委員長などもやられることになってしまいました。まず教室の確保に走ったわけなのですが、「へー」ってなものでした。よく知らないでいたのは私ぐらいなものなのでしょうか、教室を使うのって、けっこう金がかかるのですね。学会の財源はたいそう乏しいので、とてもはらはらしました。まず言われたのが、1㎡あたり1時間8円とのことでした。後でひとに、光熱費の方がかかるんだよね、と言われ、うへ、と思って尋ねたら、教室使用料が5円で光熱費が3円とのことでした。冷房も暖房も一緒だそうです。ちなみに今回用意している大教室は379㎡です。1時間3,032円ですか。ところが、今年度から料金体系が変わりました。だいぶ値上がりしたというのでまた事務に行って聞いてみますと、1㎡いくらというのはやめて、教室毎に時間単価を決めたということでした。で、あの大教室はというと、1時間7,700円だって言うじゃないですか。おい、学会開けないぞ、と思ったら、「実行責任者は学内の方ですか」と言うので、私がそれだと言うと、じゃ、減免されますということで、1時間3,500円。少し、ほっとした次第です。なにせ、あと小教室5部屋と会議室を借りなけりゃいけませんからね。ああ、私はなんでこんなことうだうだ書いているのだろう。意味もなくこんな無内容な編集後記をこんなに長く書いてしまって。ニューズレター編集長を引退するのも近いと思われまふ。ともあれ、東京大学駒場キャンパスでの大会には奮ってご参加ください。

(野矢茂樹)

日本科学哲学会ニューズレター No. 30 2005年5月30日

編集兼発行 日本科学哲学会

事務局 〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
東京都立大学人文学部哲学科内 日本科学哲学会
Fax. 0426-77-2073【宛名「日本科学哲学会」明記のこと】
e-mail. philsci@comp.metro-u.ac.jp
URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/index.html>

印刷 文成印刷 〒168-0062 東京都杉並区方南 1-4-1